

# JASIS

## NEWS

# No. 73

2024/2/21

## 日本インテリア学会会報

### ■令和6年1月1日能登半島地震災害お見舞い

会員の皆様には日頃より学会活動にご尽力いただき、御礼申し上げます。さて、皆様既にご存じのように、能登半島で発生した地震は甚大な被害と影響をもたらしております。北陸支部の会員の皆様、また地震による影響がありました会員の皆様や関係者の皆様のご無事と一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

### ■会長挨拶

#### 日本インテリア学会第35回大会（東海）を終えて

学会会長 横山勝樹（女子美術大学教授）

昨年10月末に第35回大会が盛会裡に終了しました。大会長の河辺伸二先生ならびに実行委員長の中井孝幸先生、大会事務の清水隆宏先生はじめご尽力を賜った東海支部の皆さまに改めて御礼申し上げます。本会は4年ぶりの対面式開催となりましたが、「来てよかった」という参加者の声を幾度も耳にしました。見学会35名、研究交流懇親会50名、研究発表会100名、記念講演会60名の皆さまが参加されたとのこと（人数は概数）。詳細については本報の報告をご覧頂きたいと思いますが、諸戸家住宅と六華苑の見学では、未公開エリアの観覧や洋室スタンドグラスの修復・復元作業をされた金田美世先生に現場でご説明頂く貴重な機会に恵まれました。記念講演では、井澤知且先生から欧米の公共空間についてのお話がありましたが、錯視のクイズからお話が始まり、視点の転換からエクステリアと区別しないインテリア学の新しい展望をご提示頂き感銘を受けました。また研究発表会では37件の発表があり活発な質疑応答が行われました。

ただ残念であったのは、大会中に河田克博先生が体調を崩され、その後ご逝去された事です。生前ご親交の深かった中井先生、河辺先生、清水先生の追悼文が本報に

掲載されましたのでぜひご一読ください。私自身は大会懇親会の折に初めて親しくお話しさせて頂いたのですが、先生が学生の頃に当時名工大で教鞭を取られていた高橋鷹志先生のゼミに入ろうと思っておられたという裏話を伺いました。東海支部長、歴史部会長を歴任されインテリア学会の発展に大きな足跡を残された河田先生から、これからも多くのご教示を頂戴したいと思っておりましたので残念でなりません。ご冥福をお祈りします。

さて私は会長職として初めて携わった大会でした。その立場から感じた事を少し記します。今年度も卒業作品展がオンライン開催され46校からの力作が出展されました。家具製作からまちづくり計画まで作品のスケールやデザインの取り組み方が多種多様で、顕彰のための審査が大変でしたが、それぞれの作品は今後のインテリアデザインの発想を広げる示唆に富んでいました。今回で30回目を迎えたこの作品展が今後レビューされる機会があれば、本学会が将来の人材育成にどのような貢献が出来るのかを知る貴重な資料になるだろうと思います。

閉会式では学生優秀発表賞の表彰も行われました。歴史資料や文献に基づく研究、インタビューや心理評価に基づく研究など調査分析方法は多岐にわたりましたが、結論の根拠となるデータの整理や分析過程の記述が丁寧に成された発表が目立ちました。学生・院生の皆さんの進路はさまざまだと思いますが、引き続き研究に興味を持ち続けて頂きたいと思います。最近私が審査を担当した自治体の競技設計では、評価項目が詳細に分けられて

いて、それぞれを得点化することが求められました。当選者決定プロセスの透明性が求められる世論の中、応募案においても根拠データの提示やコンセプトの論理的記述が必要となります。Evidence-Based Designの潮流の中で、研究と実務はより近づくだろうと思っています。卒業作品展各賞と学生優秀発表賞の受賞者は、本報および本会ホームページで公表されています。実施にあたりご尽力いただいた表彰委員会の高月純子先生、大崎淳史先生、松崎元先生に御礼申し上げます。

今年は、11月9日（土）・10日（日）に北陸・高岡での大会開催が予定されています。年頭の能登半島地震で被害に遭われた地域皆さまにお見舞いを申し上げたいと思います。本会については長山信一先生はじめ支部の皆さまが着々と準備を進めておられます。皆さまと共に北陸大会での学術成果を上げることで、日本インテリア学会としての社会貢献を果たしたいと考えております。会員の皆さま本年もどうぞ宜しくお願い致します。

## ■追悼 河田克博先生を偲ぶ

### □追悼 故 河田克博先生を偲んで

東海支部長 中井孝幸（愛知工業大学）

河田克博先生とは、どちらも8年ほど前に入会した日本インテリア学会と日本建築協会において、それぞれ東海支部の役員会で一緒していたため、月に一度は顔を合わせていました。特に、インテリア学会では、私自身が入会してから間もないころに、不慣れな状況にも関わらず、東海支部長を拝命することになってしまい、副支部長をお願いした河田先生には、本当に一から支部運営を教えていただきました。

また、河田先生はたいへんお酒好きでもあり、コロナ禍で対面での役員会が開催されない時期もありましたが、役員会の後は必ずと言って過言ではないほど懇親会が開催されていました。ご専門の建築史はもちろん、建築や街並み、お酒や食文化まで、本当に博識であられて、私自身は毎回その懇親会でのお話しを楽しみに、支部役員会に参加していたようにも思われます。

私の研究分野は建築計画・施設計画であるため、河田先生から直接ご指導して頂く機会は、あまりありませんでした。しかし、支部役員会や支部総会などで、私がミニレクチャーを行った際には、必ず河田先生からご質問やご指摘をして頂き、時には厳しく、そして優しく見守って頂いているような印象を持っていました。

河田先生には、まだ教えて頂くことがたくさんありましたので、ご逝去はあまりにも突然で、暫くの間、実感が湧かず、茫然と過ごしてしまいました。立ち止まっていると、河田先生から、またお叱りを受けそうなので、先生からの教えを胸に留め、支部活動を続けていきたい

と思います。多くの方々から愛された河田先生に対し、心から尊敬と感謝を捧げ、謹んで哀悼の意を表します。

### □追悼 河田克博先生

日本インテリア学会第35回大会（東海）大会長  
河辺伸二（名古屋工業大学大学院教授）

河田先生のご生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

河田先生と河辺は、学部の卒業年度は違いますが、大学院社会開発工学専攻博士後期課程の修了は平成2年と同じで、同級生でした。助教授として大学に戻りました時期もほぼ同じでした。そうしたご縁で、河田先生は、河辺にいつも優しく、親切に接してくださいました。分からないことは、面倒くさがらずに、丁寧に説明してくださいました。困ったことに関しては、同様に考えてくださいました。

日本インテリア学会東海支部長に推薦して下さったのも、多忙な支部長を支えて下さったのも河田先生でした。2023年度の日本インテリア学会第35回大会の大会長に推薦して下さったのも、河田先生でした。河田先生は副実行委員長として、実行委員長の中井先生、事務局総務の清水先生、河辺をはじめ実行委員会をご指導してくださいました。

10月に開催されました大会の思い出をお話します。見学会は、桑名市の諸戸家住宅でした。見学会は、歴史部会と共催でしたので、歴史部会長の河田先生も計画の一員でした。河田先生は、熱心に説明されていました。この後、名古屋市栄のイタリアンレストランで、研究交流懇親会を開催しました。河田先生の両側の席に、牧野さんと河辺が座っていました。牧野さんは、河田先生の研究室の初期の大学院生でした。牧野さんと河辺に囲まれ、最高に幸せだったと思います。

ところで、いつの頃からか、卒業式夕刻の記念パーティーや、建築学科の教員と学生の建築大交流会の挨拶の時に、河田先生は、いつもワイングラスを片手にあげ、「ワイのワインやあ」と発声されるようになりました。学生も教員も河田先生のこのフレーズを聞きたいために、リクエストするようになりました。

話は戻って、インテリア学会大会の研究交流懇親会の時も、河田先生のグラスにイタリアワインが、赤、白、赤、白と注がれるたびに、「これは誰のワインですか」と問いがあり、すると河田先生は、にっこり笑いながら、上機嫌で、低い声でゆっくり、「ワイのワインやあ」と言われていました。河田先生は名古屋の地酒、醸し人九平次を用意され、「どやあ、おいしいだろう」と、にっこりとされ、ゆっくり、ゆっくり地酒を堪能されていました。河田先生のおかげで、大会は開催できました。感謝でいっぱいです。

河田先生とご一緒に、いろいろなところに行きました。最後に、楽しい思い出の写真を紹介します。2017年

11月、日本インテリア学会東海支部「秋の高山、インテリア見学会」で、フィン・ユール邸、オークヴィレッジ、吉島家住宅を見学しました。フィン・ユール邸での集合写真です。前列の中央が河田先生です。河田先生、今までありがとうございました。

心からご冥福をお祈り申し上げます。



最前列中央が河田先生

## 口恩師 河田克博先生を偲ぶ

清水隆宏（愛知工業大学）

名古屋工業大学名誉教授の河田克博先生が、令和5年10月29日に逝去されました。大学を定年退職されて5年半余り、6月の誕生日に71歳になられた河田先生は、豊富な経験と幅広い見識、そして温厚なお人柄で誰からも頼りにされ、様々な学協会や各種委員会にて以前と変わらずご活躍されていた矢先、突然の悲報でした。

私は名古屋工業大学入学から9年間、特に河田研究室に在籍した学部4年から博士後期課程までの6年間、そして現在に至るまでの研究活動や学会・各種委員会での仕事など、長きに渡り常にご指導いただき多大なご恩を受けました。この数か月深い悲しみに沈む中で、先生との思い出をたくさん振り返っていましたが、そのどれもが、先生の優しいお顔と共にある楽しい記憶、良い思い出です。私のことをいつも暖かい気持ちで包み込み、見守ってくださっていたことに改めて深く感謝いたします。河田先生を偲ぶ気持ちをここに書き尽くすことは不可能なので、今後様々な場で様々な人と、先生との思い出を語り合い、ご功績を語り継いでいきたいと考えています。

インテリア学会での河田先生は、歴史部会や東海支部において常に我々を導いてくださる欠くことのできない存在でした。その先生ご不在の影響を少しでも小さく抑えるべく、今後は全員で協力し、全力を尽くして役割を遂行してまいります。

河田先生、これまで本当にありがとうございました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## ■第35回日本インテリア学会大会（東海）開催報告

実行委員長 中井孝幸（愛知工業大学）

第35回日本インテリア学会大会は、2023年10月28日（土）、29日（日）の両日、総務委員会のご支援を受けて、東海支部の担当により、名古屋工業大学を会場として開催されました。ここ数年の第33、34回はコロナ禍に鑑み、オンライン開催となっていましたが、第35回は対面開催を主軸として、作品展をWeb開催とするなど、対面開催をベースとしてオンラインも活用した大会とすることになりました。特に、総務委員長の松崎元先生には、当日運営に至るまで、献身的なサポートを賜り、厚くお礼申し上げます。

第35回大会を東海支部で開催することになった経緯は、2022年7月に総務委員長の松崎先生より、北海道支部や北陸支部が人員不足とのことで、順番が少し変わりますが第35回大会を東海支部で開催できないかとの打診を受けたことから始まります。その後、2022年9月に開催した東海支部役員会で、対面開催またはオンライン開催、あるいはハイブリッド開催となるのか状況が読めないこと、前回（2016年度第28回大会、名古屋工業大学にて開催）東海支部で担当した際、特に会計業務が逼迫したため、大会運営の事務量を減らす必要があることなどの問題点を確認しました。そこで、本部や他支部からのサポート、コロナ禍同様に作品展のWeb開催継続など、引き受け条件を示した上で、「対面開催をベースとしつつ、オンラインも活用した大会」として開催できるのであれば、引き受けを前向きに検討することになりました。

それからは、2022年12月の支部役員会では日程と会場、見学先の候補地を検討し、2023年3月の役員会では日程と会場、見学先を確定し、記念公演会の講師、役割分担の案が示されました。ちょうどその頃に、インテリア学会本部の新しくなった公式ホームページも試験的に始動するタイミングで、大会の案内や執筆要項などもホームページの活用を検討していくことになりました。2023年度になってからは、7月に開催する東海支部総会と10月の第35回大会について同時並行で検討し、例年よりも多く支部役員会を開催して準備を進めました。2023年5月には、総務委員長の松崎先生にも相談しながら、コロナ禍以前のように、第一日目に見学会と研究交流懇親会、第二日目に開会式、研究発表会、記念講演会、表彰式、閉会式を対面で行い、卒業作品展のみ学会本部ホームページにて掲載する基本方針を確定しました。

コロナ禍を経て、対面で開催する久しぶりの大会でしたので、参加者がどれぐらいになるのか全く予想が付きませんでした。前回に東海支部が担当した第28回大会とほぼ同数の参加者数を想定して準備に当たりました。

結果として参加者は、想定よりも若干少なくなりましたが、その分、空間的にも時間的にも少しゆとりのあるプログラム編成ができました。第二日目に名古屋工業大学2号館に大会本部を設け、久しぶりの対面開催で細かいところまで配慮が及ばなかったかもしれませんが、つづがなく実施することができました。

最後に、会期中に本大会の副実行委員長で、これらの準備において長年のご経験に基づき、的確なアドバイスを頂いていた名古屋工業大学名誉教授の河田克博先生が、ご逝去されました。哀悼の意を表し、心よりご冥福をお祈りいたします。

## 大会記録

実行委員（総務） 清水隆宏（愛知工業大学）

### 10月28日（土）：大会1日目

#### 見学会

今年度の見学会は4年ぶりに対面での通常開催となりました。事前準備の段階では、感染症対策及び見学する文化財建造物の保護の観点から参加定員を40名と設定したものの、参加者数がコロナ禍以前に比べて多くなるのか、少なくなるのか予測が難しく、無事に開催できるかどうかと不安を感じていました。そんな心配は杞憂に終わり、参加申込者38名（実際の参加者は35名）と受け入れ可能な最大数の方にご参加いただくことができました。

今回の見学会は、三重県桑名市の近代化・発展に多大な貢献を果たした諸戸家の建物群を見学しました。諸戸家は初代諸戸清六が、米穀業・山林業・廻船業などで財を成した名家で、当時の桑名町が断念した上水道を多額の私財を投じて自家用水道として完成させ、これを無償で市民に提供するなど地域の発展に貢献したことで有名です。見学会はまず諸戸家住宅（西諸戸）正面玄関に集合後、開始しました。まず前庭にて、河辺伸二大会長の挨拶、見学会開催に多大なご協力を賜った諸戸財団担当者からのご挨拶、そして河田克博歴史研究部会長の挨拶がありました。その後は少人数の班に分かれて建物内や庭園の見学を行いました。広い敷地内、多数の建物内を、屋敷の住人になったつもりでご散策いただけただけではないでしょうか。主な見学先は、国指定重要文化財の主屋（主体部：明治22年、伴松軒：明治43年、洋室：大正5年以前）、表門（明治時代）、玄関及び座敷（明治28年頃）、広間（明治24年上棟）、洋館（明治30年頃）、玉突場（大正14年～昭和5年）、庭内の推敲亭（江戸時代）で、時代や様式そして用途も異なる各建物・各室の様々なインテリアをご堪能いただきました。特に、主屋洋室については、日本近代におけるステンドグラスの研究者であり、同洋室内に設置されているステンドグラスの修復・復元に携わった金田美世氏から、直接解説をしていただきました。ステンドグラスの魅力や制作過程、室内空間との関係性、修復工事での苦労話などについて多くのことを知る機会になったと思います。なお、今回見学

した建物は現時点ではすべて非公開となっておりますが、管理者の諸戸財団の皆さま方には本見学会の学術的目的をご理解いただき、見学会実施に多大なるご配慮ご尽力を賜りました。心より感謝申し上げます。

次に、初代清六の死後、二男清太が継いだ諸戸宗家の北側隣地に、二代目諸戸清六を襲名した四男清吾が結婚後の新居として建設した旧諸戸清六邸（現 六華苑、東諸戸）を見学しました。いずれも国指定重要文化財の和館（大正元年）、洋館（大正2年、ジョサイア・コンドル設計）、これらが南側の庭に面して直線的に接続する外観、洋館内部の襖の使用など、和洋折衷の意匠を見ることができました。関東支部の皆様は、コンドル設計の建築を見る機会が多くあるかもしれませんが、こちらの洋館は、関東以外で唯一残るコンドル設計の建築であり、当地方では貴重な近代建築の1つです。

コロナ禍のオンライン見学会も魅力的な行事でしたが、今回ご参加いただいた皆様には、実際に現地で見聞することによる、建築・インテリア空間の魅力を最大限感じていただけたのではないのでしょうか。

#### 研究交流懇親会

研究交流懇親会は、名古屋市中区栄にあるイタリア料理店Arcoba（アルコバ）にて開催しました。近年の名古屋では、各地区での再開発が行われ、特に栄地区や名駅と呼ばれる名古屋駅周辺地区では高層ビルの建て替えが進んでいます。前回の東海支部での大会（第28回、2016年）にご参加いただいた方、初めて来名される方、皆様に活気ある名古屋の雰囲気をご体感していただくため、懇親会会場を名古屋の中心・栄と決め、街の中心・ビルの谷間でありながら大きな空と自然が感じられ、目の前には名古屋のシンボルのテレビ塔や竣工間近の新中日ビルが見える、100m幅の広々とした久屋大通内に数年前オープンした商業施設レイヤード・ヒサヤオオドリパーク内の店舗での懇親会となりました。

実行委員の村井裕樹先生の司会にて開会し、大会長の河辺伸二先生の挨拶、学会長の横山勝樹先生の乾杯にて始まった懇親会は、4年のブランクを感じさせない盛り上がりでした。お店から提供された美味しい食事、ワインなどに加えて、実行委員会では愛知の銘酒「醸し人九平次」「義侠」をご用意しました。「インテリア」を共通



乾杯



交流会の様子

項に参加者同士が楽しく交流し親睦を深める、大会恒例の楽しい懇親会が戻ってきたことに参加者の皆様はとても満足されている様子でした。

## 10月29日（日）：大会2日目

### 開会式、研究発表会

実行委員の清水隆宏が司会進行を務め、まず初めに中井孝幸実行委員長が開会宣言を行い、河辺伸二大会長、続いて横山勝樹学会長による開会のご挨拶をいただきました。開会式へは、今大会へ参加する約100名の方にご出席いただきました。

続いて、研究発表会が3会場に分かれて午前中に2セッション、午後1セッション、合計9セッション、対面形式にて開催されました。各発表の詳細につきましては各座長による講評をご覧ください。

※大会研究発表梗概集に一部印刷不備がありました事、お詫び申し上げます。当該ページの修正版を会報に同



大会長挨拶

封いたします。

### 記念講演会

実行委員の夏目欣昇先生が司会・講師紹介を務め、都市研究所スペーシア顧問の井澤知且氏（名古屋学院大学名誉教授）に、「インテリアと公共空間の新たな関係性を探るー公共空間に滲み出るインテリアからの考察」と題してご講演いただきました。会場へ投げかける質問から始まったご講演に参加者は惹きつけられ、その後の屋内から公共空間への活動の滲み出しを積極的に受け止める欧米の事例の話などから、新たなインテリア空間の捉え方を考える契機となるととても興味深い講演会でした。



記念講演会

### 表彰式、閉会式

高月純子表彰委員長より、オンライン開催された第30回卒業作品展の受賞作品の発表、表彰が行われました。次に、渡邊秀俊理事より、学生優秀発表賞が発表され、横山学会長より受賞学生へ賞状が授与されました。引き続き、令和5年度名誉会員の称号授与が執り行われました。

### 〈名誉会員表彰〉

上野 弘義氏（前監事）、内田 和彦氏（前関東支部長）、佐藤 公信氏（監事）、棒田 邦夫氏（前北陸支部長）  
（順不同・敬称略）

### 〈卒業作品展表彰〉

#### ・最優秀作品賞

池上 柚月（東京電機大学）

『千姿万態』（せんしばんたい）

高岡 卓史（名古屋芸術大学）

『irene project：ジャズバンド奏者のための楽器も座れる椅子』（アイリーン プロジェクト）

#### ・優秀作品賞

柴野 沙彩（岡山県立大学）

『巡る庭ー湧水と人々を紡ぎ育てることー』

山田 楽々（芝浦工業大学）

『都市をscopeーふれる場所性ー』

山下 志都花（武蔵野大学）

『Borderless Village』（ボーダーレス ヴィレッジ）

#### ・特別賞

池田 真央（東京造形大学）

『想〜パブリックスペースでの個空間の研究〜』

安達 湧喜、岩崎 燎、賀川 聡美、錦織 佑希、安野 まり（島根職業能力開発短期大学校）

『都野津 古民家をカフェへコンバージョン』

#### ・高等学校優秀賞

木下 歩乃佳、平沢 彩花、村松 若葉（千葉県立市川工業高等学校）

『バーチャル市工 in インテリア科』

### 〈学生優秀発表賞〉

「揖斐川町光永寺本堂に関する研究ー内田仙司が遺した建築図面と現存遺構の比較ー」



学生優秀発表賞表彰

渡邊 凜 (岐阜工業高等専門学校専攻科)

「駅ホーム上の不安感に影響する物理的要因に関する調査」

横山 純和 (文化学園大学大学院)

「尾道市吉和の漁師の生業における家船での居住空間についての研究」

石地 菜月 (広島工業大学)

「開かれた庁舎建築に関する研究—半屋外空間の変容—」

吉澤 伊代 (日本大学大学院)

## ■日本インテリア学会 第35回大会 (東海) 研究発表講評

### 【住宅1】001~004

座長：山田智彦 (東京都市大学)

001 大分県竹田市にある121件の空き家を調査対象として、空き家利活用のために客観性の高い調査カルテ作成を試みる研究である。地域の空き家マップを作成した上で、丁寧なフィールドワークとフィードバックによって調査カルテの精度向上を目指している。現時点では外観調査からの推測による項目が多い調査カルテは、内観調査の実施によって更なる精度の向上と空き家利活用の推進を図ることが出来るだろう。加えて、本研究活動を介して竹田市全体の街づくりに寄与している点に着目したい。

002 子ども巣立ち後の子ども部屋の活用の実態を、子ども部屋の片付け状況に着目して、WEBアンケートから調査する研究である。子ども部屋の片付け状況に着目している点が、調査結果に深みを与えている。子ども巣立ち後の親の心境と、子ども部屋の使われ方の実態を調査して、子ども部屋の片付けによって、これからの暮らしへの意欲が高まり、リフォームのニーズが高まることを明らかにしている。近年多様化するライフスタイルにおいて、子ども巣立ち後の新たなライフスタイルの発見につながるだろう。

003 本研究は在宅ワークスペースの実態調査その1とその2に続く研究であり、社会全体が新型コロナと共存する日常に慣れ始め、在宅ワークの定着期となっていることを背景として、住宅内のワークスペースの実態をWEBアンケートから調査する研究である。住宅の規模と

住み手の主な在宅ワークの場所の関係性をアンケート調査から明らかにし、夫妻によって在宅ワークスペースの場所に違いがあることが分かった。コロナ禍以降、住宅内のワークスペースは標準的に考慮が必要となっており、現代社会のライフスタイルに影響を与えている。

004 003の続編で、在宅ワークスペースの要望についてWEBアンケートから調査する研究である。在宅ワークに最も使用する場所での行為を、仕事と仕事以外の行為で分類し、ワークスペースに求める要望を調査して、夫妻によってワークスペースでする仕事以外の行為の違いがあること、さらに、ワークスペースの機能的条件に加えて、ワークスペースからの眺めや室内の温熱環境の重要性について明らかにした。在宅ワークスペースの実態調査その1からその4に続く研究は、在宅ワークスペースの質の向上と新たな計画手法の提案を期待できる。

### 【住宅2】005~009

座長：近藤正一 (日本文理大学)

005 感染対策意識の向上により自宅における防災意識が高まったことを明らかにした前報に続き、社会状況に応じた在宅避難ニーズや取り組みの変化を把握し防災を考慮した住宅提案について考察している。コロナ禍中では避難所へ行くことに抵抗を感じる人が増え、飲料水等の買いたがめが結果的に備蓄につながっていたと推測し、今後においても特に40代以上で在宅避難を希望する割合が高いことから、避難所の改善が望まれる一方で、感染症も含めた災害に対応できる住宅の提案が示唆され、研究のさらなる発展が期待される。

006 コロナ禍による外出機会の減少や在宅勤務の影響により、男性の調理機会が増加している可能性が認められることから、調理と買い物頻度の実態を19項目について、また調理と買い物行動の変化とニーズを22項目について、それぞれ自炊が増加したと認識している人の割合の男女差を比較考察している。数々のたいへん興味深いデータが示され、それらの考察を踏まえてキッチンを中心とした夫婦のコミュニケーションと協力しやすい調理空間の提案により、さまざまな課題が改善される可能性を示している。

007 仙台市および近郊都市においてリフォーム・リノベーションを専門に設計・施工を行っている企業の事例104件について、DK+L、K+LD、LDK、K+D+Lの四種に分類し、元々はキッチンが分かれていた事例が8割であったことを示したうえで、その後の間取りの変化とキッチン配置の変化について考察した結果、LDKへの間取り変更を行った事例の割合が高いこと、また共働き世帯であることとキッチンを室内側に向けることとの関連性が高いことを明らかにしている。地方性なのか全国的にそうなのか、調査の展開が望まれる。

008 災害発生時に被災者が自ら組み立てられる縮小版の簡易応急仮設住宅を考案し、学生の教材として実際に製作する演習を実施した。屋根・壁・建具・電気設備に

ついで安全性と作業負担の軽減、また居住性に配慮し、重機を使わずに大人2人による3時間程度の作業で組み上げられるキットを実現しており、実物大であっても3~4人による半日程度の作業で設置可能であると予測している。断熱性の向上や軽量化など今後さらに改良を加えていくことで、被災者の心身的なストレスの軽減実現を目指しており、実用化が期待される。

009 住宅の玄関における濡れた雨具の置き方について、置き場所がなく部屋が濡れるといった梅雨の時期の困り事を明らかにしたうえで、傘の置き場所・保管場所が定まっておらず多様であることから、これまで住宅において濡れた傘を置くための場所があまり考えてこられなかったこと、集合住宅では玄関スペースへの傘立て設置が困難な状況があることなどの実態を示し、とりわけ折り畳み傘は直置きや立てかけ等が多く、安全面・衛生面・美観面で問題があり改善が必要であるとし、具体的かつ魅力的な解決策を示唆している。

### 【住宅3】 010~012

座長：小川和彦（千葉職業能力開発短期大学校）

住宅（3）では、「九龍城の空間構成と生活の実態」「日本統治時代における台湾伝統住宅の「和室」の配置と使用状況に関する調査研究」「都市居住街区内部の立面にある情景エレメントの実態調査に関する研究」の3つ講演がありました。最初の2つの発表は香港、台湾と海外の住宅文化に関する研究で興味深いもので、香港の九龍城での生活や、台湾に残る日本の文化についての講演でした。また最後の講演は、私たちが気づきにくい情景エレメントで、空間の要素として改めてその重要性を感じました。

### 【歴史1】 013~017

座長代理：清水隆宏（愛知工業大学）

013 「インテリア」が建築における一つの独立した分野として形成されていく黎明期を記録に留めるため、インテリア分野の研究・産業・教育の各分野に携わった方々の声を記録し、その内容を分析した本学会にとってとても重要な研究である。インテリアという言葉が公に使用されて社会的に認知されたのは1970年以降、文部省の認可や通産省の施策に依るが、その背景には生活の洋風化による新しい住空間と建材・家具の登場があったと指摘している。今後も調査は継続されるため、さらなるインテリア分野黎明期についての知見が集積されることを期待したい。

014 尼崎市立浦風小学校の設立、校舎建設に関する研究の続報である。前報では用地取得に苦労を伴ったことを明らかとし、敷地の制約と円形校舎採用の関連について考察しているが、本報では市議会の議事録や校史・新聞記事、さらには各時代の航空写真まで研究対象として分析を試みている。それによって、取得できた学校用地の形状が理由となって浦風小学校は円形校舎が採用され

たことが明らかとなった。さらに、当時教員や生徒として円形校舎を利用していた方々へのヒアリング調査を実施し、その結果をまとめた扇型教室の利点と欠点は、とても貴重な情報である。

015 京都市内に現存する1936年竣工の和洋併設型の近代住宅を対象とした研究である。本報ではその建築的特徴を明らかとしている。この住宅は、呉服店を営むカトリック信者の施主によって建てられ、施主の美意識と洋風生活への理解が随所に現れた、竣工当時から注目された住宅であったことが『住宅』誌に多くのページを割いて掲載され、設計施工のあめりか屋の営業用冊子表紙にも使用されていることから窺える。洋館の中心に和室があること、洋館のインテリアに和のモチーフを使用していること、スタンドグラスが多く用いられていること等、多くの新しい知見を明らかとしている。

016 015に引き続きK邸を対象とした研究であり、本報では使用家具とその配置を考察している。別邸に保存されていた家具22種類の実測調査を行い、『住宅』掲載写真や親族から聞き取った情報を照合し、当初の家具配置を特定、竣工当時の家具配置図を提示している。建物のスパニッシュ様式に対して、家具は各室でデザインが異なり、古典的様式だけでなくモダンな意匠も使われており、新しい生活のあり方を求めた施主の意向を明らかとしている。以上の通り、竣工当時の家具の寸法、意匠、配置、使用状況を示す古写真等、本報で明らかとされた内容はとても重要な知見である。

017 岐阜県揖斐川町の光永寺本堂は山間の村に建つ典型的な寺院本堂であるが、建設の背景には信心深い村民一同の熱意により建立されたこと、設計施工したのはこの地方で活躍した大工内田仙司であることを明らかとした研究である。さらに、内田仙司による当本堂の建築図面が遺されていることを示し、その分析及び遺構との比較分析を行っている。図面と遺構は基本的には同内容であるが、複数枚の同箇所図面の存在や図中で紙貼りや白塗りで書き直された箇所が存在が確認でき、これらから設計の過程、意匠決定の過程を読み取ることができると指摘している。

### 【歴史2】 018~021

座長：船曳悦子（大阪産業大学）

018 ヨーゼフ・フランクの後半生である1930年代以降を対象として、テキスタイルデザイン作品に関する考察である。前報告における1920年代までのヨーロッパの建築家としての活動に続き、建築の仕事からテキスタイルデザインを中心に創作の幅を転換した経緯が報告された。テキスタイルデザインとそれらが生まれた背景として、ヨーゼフ・フランクのウィーンからストックホルムへの移動、マンハッタンへの亡命、プロバンスへの旅立ちなど時代順に整理された。今後、テキスタイルデザインの歴史的展開の解明に期待したい。

019 1897年から1918年までのウィーン分離派の設立から

モーザーの没年までを対象として、コロマン・モーザーとヨーゼフ・ホフマンの椅子デザインに関する報告である。両者のデザインにおける類似点と相違点を明確に示し、それぞれの影響源やその後のデザインに与えた影響に焦点をあてている。特に、時代を先取りした簡潔なデザインが、モダンデザインや現代デザインにどのように影響を与えたのか、モーザーとホフマンが創り出した椅子のデザイン史における位置づけを明らかにしている。

**020** ヨーゼフ・ホフマンの初期作品である「Sitzmaschine」と、ル・コルビュジエの作品である「LC4」は、ともに寝椅子の性能において「機械」という用語を使用している。本報告は、「機械」と「心地よさ」の視点から、モリス・チェアから2つの椅子のデザインプロセスと背景を比較・考察したものである。デザイナーが時代の要求にどのように応え、椅子という道具に具現化していったかに焦点を当て、ヨーゼフ・ホフマンを中心に近代デザイン史における椅子の変遷の解明に期待する。

**021** 発表欠席

#### 【教育】 022~025

座長：清水隆宏（愛知工業大学）

**022** 幼稚園や保育園における同様の課題を調査・考察した既往研究は数多くあるが、小学校におけるテラスの利用実態、授業展開に活用する可能性に着目した研究である。小学校特有の用途として「授業を展開する場」「児童の自主的な授業実践の場」といった有効な機能が見られたことを指摘している。研究対象校のプランは、オープンスペースとして機能する廊下、十分な広さのテラスを有しているが、設計された当時の施主や設計者の意図が分かると、これらが先進的な試みの実現か意図せず実現した空間か等が分かりそうで興味深い。

**023** 空き家対策は全国で喫緊の問題となっているが、本研究は空き家の利活用の課題と、建築を学ぶ学生が身近に感じて意欲的に取り組める実践的な課題の設定という社会的・教育的効果が期待できる授業の取り組みを紹介している。研究発表では、実際に竹田市城下町地区に出掛け、地域の魅力を見出し、意欲的に課題解決への提案を検討する学生達の様子が窺えた。地域住民へ効果的に学生の提案を公開する点については、今後検討してほしいが、学生への貴重な学びの場を提供するために尽力された筆者ら関係者の皆さんへ敬意を表したい。

**024** インテリア及び建築に関連する資格試験は多く存在するが、その製図試験での表現方法の差異について明らかとする研究の続報である。8種の各資格の製図試験における高さ表記方法を分析した結果、平面図について検討した前報と比べると、展開図や断面図等の高さに関する指示はある程度揃っていることを明らかとしている。ただし、主要寸法の記載、詳細な機器・部材の選定、仕上げの記入等については、各資格で様々に要求されている。筆者らが制作、改定している本学会インテリア製図通則が、これらの点にも対応することが期待される。

**025** 柔軟なイメージやアイデア創出のための有効な手段として、近年イギリスのインテリアデザイン教育において重要視されているムードボードに着目した研究の続報である。本報は、イギリスでのインテリアマーケット、ショールーム、展示会の事例が多数紹介されておりその有効性、重要性を理解することに役立つ。また、ムードボードは（インテリアの専門家ではない）顧客の要求が変わってしまう様な場合、イメージを固めさせたり、共有したりする「確認ボード」としても役立っているとの指摘があった。

#### 【人間工学・家具】 026~028

座長：井澤 幸（相山女学園大学）

**026** 本稿は、浴槽レス浴室の基準整備に向け、寝室内に設置する押し入れ改修型の浴槽レス浴室について、今後必要となる実験項目を抽出した研究である。介護者・要介護者ともに身体的負荷の大きい入浴行為を押し入れ改修型浴槽レス浴室で軽減しようという試みは興味深いテーマである。利用者属性に応じた入浴行動を綿密に把握し、在来浴室との比較から、手すりや車いす利用を想定した浴室内の寸法検討、及び利用者評価についての実験の必要性を示している。いずれも基準整備に向け必要不可欠な実験内容だと言え、これらの結果の報告を待ちたい。

**027** 住宅展示場において住宅メーカー25社45戸が掲げるスローガンを整理し、考察を行った継続研究である。各社の詳細分析に加え、テーマを俯瞰的に捉えることで住宅メーカーのデザイン方針を把握できる貴重な資料となっている。各社が耐震性能や環境配慮をスローガンとして掲げる結果を踏まえ、今後はタイトルに示された「ユニバーサルデザイン」の領域を明確にし、分析を続けられることを期待したい。

**028** 部屋が狭いと家具配置は抑制されるのかという身近な仮説について、建築を学ぶ学生を対象に行った仮想実験により明らかにしたユニークな研究である。15㎡の部屋では、高さ方向を有効に利用する、折り畳みベッドやロフトベッドの使用、30㎡を超えると家具の増加幅が大きくなり、家具によりゾーニングを行う事例が現れるなど有益な結果が示された。この基礎実験を踏まえ、家具配置の意図や高さ方向への展開についてさらなる継続的な調査を期待したい。

#### 【環境】 029~032

座長：正岡さち（島根大学）

**029** 本研究は、駅ホーム上から線路内に落ちてしまう不安感を取り上げ、不安感を減らし、都市生活のストレスを軽減させる知見を得ることを目的としている。調査は、駅のホーム上の距離・傾斜といった物理量の測定と被験者の心評価データを測定して行われた。ホーム端からの距離感は、不安感・恐怖感・吸い込まれ感等の心理面に大きく影響を及ぼしており、ホーム端から2000mmは利用者が立たないでいられることが望ましいと提案している。

興味深い研究であり、今後は、詳細な分析を行い、より根拠のある提案に結び付くような分析を期待したい。

030 自然と共生するワークスペースに関するインタビュー調査、アンケート調査、それらを踏まえて提案を行った研究である。少しでも好きな時に「自然と共生する」働き方をしたいと思っている人に対し、公園などの自然の中で木材を使用したモジュール家具で、人数と目的に合わせて組み立て解体ができることを特徴としたウーバーワークプレイスと、利用システムのアプリケーションイメージを提案している。実際に使用する際に起こる作業やトラブルへの対応を詳しい説明があるとより提案が具体化されてよかったのではないかと考えられる。

031 本研究は、現在はほとんど残っていない「家船」と総称される水上生活者の住まいとなる船について行われた調査である。本春に最後の家船が解体されたとのことで、地方文化を伝承していく上で貴重な研究であり、まとめるにあたり困難があったことと考えられる。本発表では、平面図を利用した居住空間の使用法の説明であったが、立面図・断面図、可能であれば3Dで全体を再現すると、図面を読み取れない一般の人々にも理解しやすく、伝承として残していけるのではないかと考えられる。今後の分析に期待したい。

032 本研究は、カフェの光環境の会話と緊張感への影響を検討した研究である。照明と緊張感に関する調査をもとに、カフェテーブルを設置した実験室に初対面の男女を対面して座った状態の照明環境時の心拍数や心理評価によって影響をみている。その結果、顔面照度が低くなるほど生理的な緊張感が緩和されるものの、視認性を考慮すると天井面を照明するパターンが好まれる結果であった。カフェ空間の計画に照明環境は欠かせないものであり、空間の雰囲気とともに利用する人の見え方・感じ方も重要な要素である。今後の展開を期待したい。

#### 【その他】 033~037

座長：江越 充（日本文理大学）

033 日本インテリアデザイナー協会西日本エリア（JID WEST）および大阪デザイン団体連合（USD-0）がIFI World Interiors Dayに連動して開催したインテリアデザインに関するオンライン事業を経て、3年振りにリアルで開催した事業について、開催の経緯や結果の報告がなされた。

質疑応答では、団体の連携やオンラインイベントの課題点、リアルイベントとオンラインの併用による効果が議論された。今後の類似イベントへの知見の活用が期待される。

034 産後ケア施設の空間計画の一助となることを目的とした実態調査の結果が報告された。宿泊型の産後ケア施設3施設を対象とし、ヒアリング、図面などの資料収集、写真撮影などから分析を行なっている。現状では乳児の受け入れ月齢が3~4ヶ月であり、国が定めるガイドライン（1歳までを受け入れる）に対応するためには、動きまわる乳児に合わせた設備と人員が必要なこ

と、多様な生活スタイルを想定し、和室と洋室の両者が用意される傾向にあることなどが報告された。今後指針作成に向けた更なる調査が期待される。

035 VR空間内での空間デザイン評価の一指標を得ることを目的として、バーチャルショップを対象とした被験者評価実験を行った結果が報告された。実際のカフェダイニングを基にバーチャルショップを作成し、視線計測と印象評価を行なっている。視線計測データからは一定の偏りが見られ、下方と右方向への注視が少ない結果となった。印象評価からは重力に即した商品提示は購買意欲を促し、無重力状態の商品提示は楽しさを誘引する効果があることが明らかとなり、今後のVR空間設計への応用が期待される。

036 育児休暇中の働く場として、どのような環境が求められるのかについて明らかにすることを目的として、先進企業の育児に関する支援制度の調査と30~40代の女性へのヒアリング調査の結果が報告された。先進企業では育児休業の取得率向上に向けた取り組みが行われ、男女ともに制度の利用率が上がっている状況が示された。またインタビュー調査から、子供を預けられる環境と短時間でも集中できる環境が求められていることが明らかにされた。託児所と働く場所の併設など、「ついでに」スタイルの提案がなされ、さらなる研究の発展が期待される。

037 多様化する行政サービスに対応する「開かれた庁舎」のあり方を検討するため、庁舎の半屋外空間の変容を調査した結果が報告された。過去の建築雑誌に掲載された107事例を調査し、類型化した結果、20世紀は出入り口付近に屋根下空間が配置される傾向があるのに対し、21世紀は囲うように連続する屋根下空間が配置される傾向であることが示された。さらに回遊性やイベント・災害時の活用が想定された中間領域としての役割が時代とともに求められてきていることが示された。今後の庁舎設計への応用が期待される。

## ■令和5年度運営委員会だより

### □総務委員会

委員長 松崎 元（千葉工業大学）

はじめに、この度の能登半島地震で被災されました皆様に心からお見舞い申し上げます。災害からの復旧、生活再建、地域の復興を心よりお祈りいたします。

総務委員会の活動状況は、学会ホームページ→運営部門→総務委員会のページに掲載しております。今年度はオンラインミーティングを中心に計7回の会合を実施しましたが、会長、副会長、顧問の直井名誉会長、委員の皆さまには、お忙しい中、毎回日程調整をいただきありがとうございました。大会中の10月29日（日）には、名古屋工業大学にて第2回理事会を開催しました。閉会式で

は、令和5年度名誉会員の称号授与が執り行われ、上野弘義氏（前監事）、内田和彦氏（前関東支部長）、佐藤公信氏（監事）、樺田邦夫氏（前北陸支部長）の4名を代表して樺田先生に横山会長から証書が授与されました。総務委員会のWebページには、歴代の名誉会長・名誉会員を掲載しておりますので、あらためてご覧ください。

<https://www.jasis-interior.jp/works/operation/somu/>

年度始めには、役員選挙の結果を受けた臨時理事会の準備、第1回理事会の準備、総会・シンポジウム・懇親会の準備、後半は大会時の第2回理事会準備など、順次進めて参りました。このほか、期限付き研究部会、支部活動の活性化、会費納入状況の確認、予算執行状況の確認、デジタル化による学会運営の推進など、各担当委員会からの情報を受け全体調整を行いながら、学会運営の下支えを担っています。多くがコロナ前の状況に戻り、オンラインも活用しながら、支部、委員会、研究部会、事務局が円滑に活動できるように尽力して参りますので、引き続きご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

## □国際委員会

現在休会しております。

## □論文審査委員会

委員長 渡辺秀俊（文化学園大学）

### 1) 論文報告集について

論文報告集34号は2023年9月30日の締切までに19編の投稿論文があり、現在査読中です。昨年の投稿数は18編でしたので、昨年より微増となっています。論文報告集34号は2024年3月末に発刊される予定です。アジア地域のインテリア系の学会論文集AIDIA Journalについては、今年も募集情報案内がありませんでしたので、日本インテリア学会としても論文募集はしていません。

### 2) 論文報告集募集規定の改定について

2022年10月22日理事会において、次の3点について規定が改定されましたのでご注意ください。

- ①著作権については、「掲載論文・報告の著作権及び編集著作権は本会に帰属する」とした。
- ②応募資格については、「論文応募時に入会申し込み手続きを終えていること（連名者も含む）」とした。
- ③送付先については、「paper.jasis※gmail.com ※を半角@に変更して送信してください」とした。

### 3) 今後の検討課題

旧アーカイブ化委員会のご尽力により、現在、論文報告集30号まではJ-SATGEで閲覧可能です。その後に発刊された31号から33号の論文報告集をJ-STAGEにアップすること、さらには論文報告集の発刊方法を今後はデジタル媒体としていくことが本委員会の課題となっています。また、査読作業の合理化を図るために、論文の投稿受理、査読依頼、査読結果等の通知を学会ホームページに

フォームを置き、デジタル化することも検討しています。

今後とも、会員の皆様と一緒に日本インテリア学会の発信力を高めたいと考えております。ご協力のほどよろしくお願いたします。

## □広報委員会

委員長 樺田邦夫（金沢学院大学名誉教授）

広報委員会では、会員相互のコミュニケーションツールとして会報の年3回発行を目指しております。現状は、速報性や掲載記事に乏しく現在は主に総会及び理事会報告と大会・見学会・理事会報告の記事が中心となり、年2回の発行となっております。一方、学会活動の速報性では昨年リニューアルしたホームページによって効果がでているように感じます。気がかりなのが、残る1回の会報発行です。広報委員会の主たる役割を「速報性」のホームページ、「記録」の会報とし、残る1回の会報を委員会、研究部会、支部等の会議記録の掲載とする方向で考えております。

## □表彰委員会

委員長 高月純子（女子美術大学）

表彰委員会の活動は、第35回学会大会の学生論文発表の審査準備と表彰、及び第30回卒業作品展のWEB展示の実施と賞の表彰を行いました。論文発表された学生の皆さま、作品展に出展された卒業生の皆さま、ご協力いただいた教育機関ご担当者さまに厚く御礼を申し上げます。

2020年度から卒業作品展はパネル展示からWEBサイト上で公開する方法に変わり、4年が経ちました。ここ5年間の出展数の増減は少ないのですが、家具など、実物製作の作品数が15→12→11→9→7作品と減少が見られました。WEB展示によるデジタルデータ提出の影響か、コロナ禍で外出制限の学生生活の影響か、または偶然かもしれませんが作品の変化が見られました。

学生の視点が時代を映していることを示すように、作品のテーマも、年毎に変化が見られます。今年は遺構など経年した場所や、歴史的負のイメージの空間を活かすデザイン、多様性を受け入れ違いを認めるためのデザインをテーマに据えた作品が多く見られました。WEB展示は公開期間を延長し、現在も引き続きインテリア学会HPにて閲覧が可能です。ご覧頂けましたら幸いです。

昨年同様、2024年度第31回卒業作品展もWEB展示を中心に第36回学会大会時に開催する予定です。卒業作品展にご出展の検討をいただけるようであれば、作品の選抜をして頂きたくお願い申し上げます。

詳細は、6月末頃にメール、学会HPでご案内する予定です。ご参考に作品展の準備の流れと、昨年の出展要項の概要を次頁にお知らせします。何卒、お含みおきをお願い致します。

## 1) 作品展の準備の流れ

〈本年度〉

- ・ 1月：卒業作品の選抜と保管等のお願い

〈新年度〉

- ・ 5～6月：作品展の会場と出展要項の詳細決定。
- ・ 6月末：学校担当者宛てに出展要項の詳細のご案内。
- ・ 7月末：出品登録票の提出の締め切り
- ・ 8月末：提出作品画像データの提出の締め切り
- ・ 10月中旬：(パネル展示実施の場合パネル提出の締め切り。)
- ・ 11月9日大会開催日：卒業作品展のWEB公開。
- ・ 11月10日：受賞作品の発表。

## 2) 昨年の要項の概要

- \* 出品料はございません。
- \* 選抜の人数は1学校で1作品の推薦でお願いします。
- \* [2024年3月卒業予定]の学生の卒業作品の推薦。
- \* 作品(画像)の数は1～5点まで。
- \* 1画像あたり20MB以下のWEB用データにて提出。

## 3) お願い

年度が変わり、作品展の連絡窓口の担当者の変更・ご退職に伴う【引き継ぎ等】がある場合は、新しい担当者のお名前・メールアドレスのお知らせをお願いいたします。

今後とも表彰委員会ではインテリアを学ぶ学生の支援、インテリア学会の活動が知られる機会を広めるために努めたいと思います。引き続き会員の皆様のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

## ■ 令和5年度研究部会だより

### □ 歴史研究部会

部会委員 清水隆宏 (愛知工業大学)

第35回大会の実行委員会に協力し、三重県桑名市の諸戸家住宅等を巡る大会見学会を共催しました。その詳細は本号掲載の大会報告記事をご覧ください。

前任の内藤昌先生より歴史研究部会長を引き継がれ、これまでたくさんの見学会や講演会を企画・運営された河田克博先生がご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

### □ 人間工学研究部会

部会長 白石光昭

本部会の活動がここ数年滞っており、お詫びいたします。

従前からお願いしておりますが、会員の皆様から活動内容のご希望があれば、次のメールアドレスへご連絡下

さい。また、活動の範囲ですが、部会名称にある人間工学だけでなく、内容を拡大して考えていきたいと考えていますので、例えば感性工学、環境工学、心理学等の研究内容に関心がある方もぜひご連絡下さい。お待ちしております。(shiro150301@gmail.com)。

### □ 教育研究部会

部会長 金子裕行 (市川工業高等学校)

今年度は活動休止中のため、特に報告はありません。

### □ 期限付き研究部会

部会長 渡辺秀俊 (文化学園大学)

期限付き研究部会は、今の時代に適した研究または基礎的な研究等を目的として、毎年、公募により設置されるアドホックな研究部会です。設置期間は12月から翌年度3月までの1年半弱で、活動終了後に報告書が提出され、大会梗概集または論文報告集にて成果が報告されます。

2023年度は公募の結果、「20世紀後半の発達と変遷から見る我が国のインテリアの特質に関する研究部会(代表者:矢部仁見先生)」「製図通則部会(代表者:長山洋子先生)」の2件の応募があり、いずれも設置が認可されました。なお、既に活動を終了した東日本大震災対応活動報告書作成部会の成果報告書は、学会ホームページに掲載されていますのでご覧ください。

## ■ 令和5年度支部だより

### □ 北海道支部

支部長 小澤 武 (小澤建築研究所)

特に報告はありません。

### □ 東北支部

支部長 市岡綾子 (日本大学)

NYタイムスが選ぶ「2023年行くべき旅行先」第2位に選ばれた盛岡にて10月21日に見学会を開催し、前支部長早野先生と岩手県在住の藤居先生、鈴木先生にご参加いただき、久しぶりに対面にて懇親を深める機会となりました。ご準備頂いた鈴木先生にこの場を借りて御礼申し上げます。岩手銀行赤レンガ館では偶然にもJazzコンサートイベント中に施設見学を行い、近代建築と音楽のハーモニーを楽しむ貴重な体験にも恵まれました。今後、より多くの支部会員や関係者が参加できる機会を企画し、交流の場づくりに務める所存です。



見学会参加者

## □関東支部

支部長 高柳英明（東京都市大学）

支部主催の連続セミナーの第2回目は、株式会社丹青社より神田武志氏にご登壇頂き、『多様な価値基準と呼応するインテリアデザインの最前線 -EC・DX・VR-時代と呼応する商業施設デザイン』（2023年12月2日土曜日15:00-17:00、於：東京都市大学世田谷キャンパス7号館TCUホール）を開催し、支部会員・一般学生あわせて100名超の参加があり大変盛況のうちに終える事ができた。引き続き第3回では、滋賀県立大学教授の金子尚志先生にご登壇頂き『くらしとインテリアと、パッシブデザイン』をテーマにして講演頂く予定。参加登録・詳細は支部HPから、皆様振るってご参加ください。

## □東海支部

支部長 中井孝幸（愛知工業大学）

対面式とオンラインのハイブリットにて、2023年8月28日に第4回支部役員会（17名参加）を行い、10月開催の大会について、特に、研究発表会のプログラム編成と座長、見学会や懇親会などの詳細について協議しました。

大会の最終確認として、2023年9月25日に第5回支部役員会（14名参加）を行い、申し込みと入金状況の確認、大会ロゴマークの決定、作品展審査員の選出、大会プログラムや発表プログラムの内容を詳細に検討しました。

本年度の大会を2023年10月28～29日に名古屋工業大学で開催しましたので、詳しくは大会報告記事をご覧ください。

## □北陸支部だより

支部長 長山信一（富山大学名誉教授）

令和5.11.03（金）“文化の日”に、JASIS北陸支部“見学会”を実施した。見学先は、金沢美術工芸大学新校舎：“カワグチテイ建築計画による設計で、『創造』と向き合い『美』が連携する街の様なキャンパス”と、（新）石川県立図書館：（環境デザイン研究所）仙田満氏設計で、内部は「銀河宇宙」の様なコロシウム型の開放



見学会参加者



石川県立図書館

的かつ立体的な空間であり、“貸出中心ではなく、課題解決型・探究型の図書館として、コミュニティや伝統文化と連動した図書館”である。家具全般のデザイン監修は川上元美氏による。向い合う両建物は、共に素晴らしく見学に値する建物である。

令和6年度開催の“日本インテリア学会 第36回大会（北陸・高岡）”には是非お越しく下さい。お待ちしております。

## □関西支部

支部長 中村孝之（生活空間研究室）

関西支部では、今年度の視察行事として、9月22日から24日の2泊3日で、「伝統から未来へつながる五島列島インテリアツアー」を行いました。

長崎県の離島、五島列島といえば手つかずの自然が残る152の島々で構成され、遣唐使やキリシタン文化などの歴史施設で知られた地域です。現在、五島市でも人口減少や高齢化は進んでいますが、豊かな自然や文化を評価した次世代の若者のUターン、Iターンによる地域の再生が起こっています。今回は、海外から渡ってきた文化と日本文化が融合した歴史的建造物を見学するとともに、今、次世代の人たちによって地域に残された建物を再生し、新たな産業や文化を生み出そうとしている現場の施設や空間デザインを視察しました。地域の再生の様子や、コミュニティのあり方、五島列島の自然や歴史との関係について、そこで実際に活動する人からの説明を聞き意見交換を行うことで、空間の持つ力を確認しました。

その他の活動としては、日本インテリアプランナー協会関西との共催によるインテリアプランニングアワード

入賞作品見学会として、建て替えられた藤田美術館の見学ツアーを行いました。美術館の都合で月曜日の実施となり学会員の参加は叶いませんでした。

今年度の予定としては3月2日に、第3回を迎える「関西支部学生研究発表会」を実施します。インテリアや住宅・建築・環境等の研究や実務を目指す学生を対象に、日頃取り組んでいる課題やゼミ、プロジェクト、卒業研究や論文などを、論文部門と作品部門に分けて公募しています。

研究発表会では専門家やデザイナーからのアドバイスや、優秀な発表を表彰するアワードも行います。日本インテリア学会ホームページから関西支部サイトにアクセスすると、聴講参加の申し込みができますので、皆様ぜひご参加ください。

関西支部学生研究発表会サイト

<http://www.jasis-kansai.jp/stp/>

五島列島における地域再生の事例より



図1. HOTEL sou



図2. 一棟貸しの宿 菜を/nawo



図3. 五島つばき蒸溜所



図4. 私設図書館 さんごさん



図5. 集合写真とソトノマ

## □中国・四国支部

支部長 谷川大輔（近畿大学）

中国・四国支部では、学生企画講演会2023として、2023年10月7日（土）に、建築家・小松隼人氏による講演会『建築と環境の「間」』を行いました。小松隼人氏は、広島出身の建築家で、住宅、商業建築などの作品を環境との関係性の中でご紹介頂きました。中国・四国支部では『munsell（マンセル）』という、広島の学生を中心にした学生ネットワークがあり、コロナ後の活動をはじめています。コロナ禍の爪跡はまだまだ残りますが、次年度からは、見学会、ワークショップなどコロナ前の状況に戻していきたいと思っております。

## □九州支部

支部長 近藤正一（日本文理大学）

### 1. 後援事業

#### 1-1 「おおいたの推しの建築展～磯崎新と大分のまちづくり～」

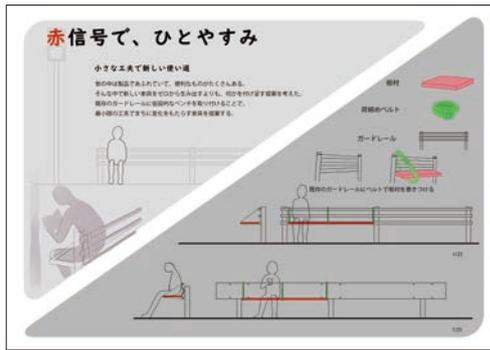
（主催：大分市＋大分県建築士会＋大分市教育委員会  
|10/20～11/19 大分市美術館|来場者:3,926名）

#### 1-2 「第12回インテリア設計士の家具デザインコンペ」

（主催：大分県インテリア設計士協会|12/8締め切り|  
応募：九州の11校より84作品）

### 2. その他

支部会員の関連する活動については順次、支部ウェブサイトに掲載して参りますので、ご参照ください。



コンペの最優秀賞受賞作品

## ■事務局より

事務局長 棒田邦夫（金沢学院大学名誉教授）

次年度（令和6年度）より事務局補助をしていただいている方が交代いたします。新しく着任します方は、村尾温子様です。私の学生時代の友人で大変気さくで、明るい方です。おしゃべり上手で利発な方ですので、私の口下手を補ってあまりある方と期待しております。今後、総会や大会時の事務局窓口としてお会いできるかと存じます。その折には皆様気さくにお声掛けください。

どうぞよろしく願いいたします。

現在の事務局員、伊藤千佳様には6年間でしたが、そ

の間お忙しい日々の中、当学会の事務雑務に一生懸命関わっていただきありがとうございました。私大変助かっておりました。今後のご活躍、お幸せを祈っております。これまでの気苦労を心より御礼申し上げます。

事務局からのお願い

会員の皆様、勤務先の移動・移籍・退職などがございましたら事務局までご連絡ください。特に事務局から発送する郵便物の宛名は勤務先／自宅別登録によって郵送されますので、発送に影響を及ぼします。近年多いのが送付先を勤務先とされている場合の変更連絡をいただけないことです。いただけないと「所在地不明」印が押されて戻ってきます。学会の重要なお知らせ（大会案内・年会費請求書・会報・論文報告集など）が届かないこととなります。このことは準会員の皆様も同様です。名簿管理にも誤りが起きる要因ともなっております。どうか変更がある場合すぐにご連絡ください。

郵送する必要はありません。ホームページの［お問い合わせ］よりご連絡をいただけますので、ご利用ください。

また、入会・退会についても入会届・退会届のワード用紙をダウンロードして必要事項を記入して書き出し、下記のメールアドレスに添付して提出してください。

事務局メールアドレス：jimukyoku@jasis-interior.jp

本年もよろしく願いいたします。

## ■編集後記

広報委員 清水隆宏（愛知工業大学）

本号は大会報告号となっておりますが、昨秋に大会が終わってから少し間が空いての発行となつてしまい、特にご執筆いただいた皆様方には大変ご迷惑をお掛けし、申し訳ございませんでした。会報の編集を担当するのは数年ぶりのことで、私の作業が遅くなってしまったことが原因です。速報性が重要な記事はHP、記録することが重要な記事は会報へ掲載するとの基本方針があるものの、会報もスピード感をもって編集、発行しなくてはならないと反省しております。

私も実行委員として運営に携わった第35回大会は、日常を取り戻し「対面」に戻すことを基本方針としました。実際に開催し皆様とリアルにお会いし、対面の良さを再認識した所です。しかしながら、「オンライン」が日常の一部にもなり、そこに良さがあることも事実で

す。今後、私に関わっている広報委員会、東海支部、歴史研究部会での様々な活動を、対面とオンラインをうまく選択したり、ベストミックスする活動として展開したいと考えています。

### ■日本インテリア学会会報第73号（2024. 2. 21発行）

編集者：清水隆宏

発行者：横山勝樹（日本インテリア学会会長）

広報委員会：棒田邦夫（委員長）、

上野友輝、角田静香、笹原理介

清水隆宏、仲谷剛史、元川鳴子

e-mail：t-shimizu@aitech.ac.jp（清水隆宏）

### ■事務局

日本インテリア学会 事務局 伊藤千佳、棒田邦夫

〒920-0941 石川県金沢市旭町1-25-25

電話：080-2386-5652 FAX：076-224-8186

e-mail：jimukyoku@jasis-interior.jp